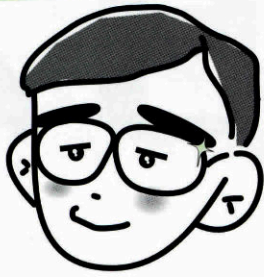


# ながと日記 ぱーと20

長門市長 松林正俊



## くじらの世紀

ご存知のように、今年下関市においてIWC（国際捕鯨委員会）の年次会合が開かれます。4月25日から1ヶ月間の予定で開催されるこの国際会議では、加盟40ヶ国が世界の捕鯨問題について議論を戦わすこととなります。勿論日本にとつては、京都會議に次ぐ2度目の開催となる国内の会議で、念願の商業捕鯨再開に向けて大きく前進したいと意欲満々です。

四方海に囲まれた日本人ほど海の資源を上手く利用してきた民族はありません。捕り過ぎもせず、適度な捕獲で鯨と海の資源バランスを保ってきました。しかし今、地球上の海洋資源は大きくバランスを失いつつあり、その大きな要因が鯨の異常繁殖による食物連鎖の変動によるものと言われています。日本が調査捕鯨の拡大や商業捕鯨の再開を唱える理由がそこにあることは、先の「くじら考」の欄でも述べたところです。

さて、わが長門市は北浦沿岸漁業の基地として栄えた水産都市ですが、近年漁獲量の激減で漁業は低迷しています。中でも主要魚のイワシやイカの漁獲高の減少は、市場の水揚げや流通など水産経済のみならず市の経済にも大きく影響しています。

最近の調査で、日本近海を回遊するイワシやイカを食べていることが判明し、沿岸漁業に鯨が多大な影響を与えていることが指摘されています。水産業を基幹産業とする長門市にとつても深刻な問題であるわけです。

一方、古来より捕鯨を営んできたわが地は人と鯨のやさしい文化を育んできました。そんな鯨と人との歴史と文化を刻んだ地域が、一堂に会して交流を深めるサミットが今月ここ長門市で開催されます。捕鯨を食糧政策や経済・環境の面からだけでなく文化面からも捉えようとする水産庁のはからい

2月11日、長門高校グラウンドでサッカー教室が開催されました。長門市や近隣市町の児童約100人が参加し、県教員団チームでも活躍されている長門高校サッカー部監督の石上大輔先生の指導を受けました。

パスやドリブルなどの基本プレーを練習した後、ゲーム形式の練習では、状況判断やポジシヨンの取り方などアドバイスを受けました。



## サッカー教室開催

「防長三奇橋」の一つ「盤石橋」の維持管理及び今後の調査研究のための測量業務が、2月19日行われました。

文化的価値の高い盤石橋の現在の姿を写真測量技術などを用い測量し、3次元デジタル情報として残すためのものです。

ラジコンヘリによる橋面上空15mからの撮影や3Dレーザーによる撮影等が行われました。



## 大寧寺「盤石橋」で写真測量

で、「第一回全国伝統捕鯨地域サミット」が開かれることになりました。

水産のまちとして海洋資源を守る使命と、過去にやさしい文化を刻んだ歴史と、この両面で鯨と深い繋がりが私たちにあります。鯨墓や鯨鮓過去帖や鯨法会・鯨唄などを誇りにしながら、海の恵みを守るために適度な捕鯨を訴えることは、他のどの地域よりも私たちの努めではなからうかと思えます。